

大原小中一貫校

大原のゆとりある心を 自信をもって伝えられる子に！

日本のふるさとから世界へ！

思いやりをもち、
自ら汗のかける子

大原の好き・自分の良さに気づき、
自分と人・自然・地域とのつながり
大切に、自ら汗のかける子に！

科学的思考のできる子

学習・生活の自立を通して、
基礎学力を確かなものとし、
科学的思考のできる子に！

コミュニケーション力を
発揮できる子

自分・仲間・人を大切に、大原の好きを
感じ、自信をもって伝えられる子に！

目指す子ども像

(教科の取組など今後作成予定)

H19・9・13

主タイトル主旨

大原のゆとりの心・・・

都会の子どもと比べて、大原の子どもたちが持っている特性を大原のゆとりの心・・・と表した。

最近の子どもの特徴は、自己中心的、キレやすい、我慢ができない子どもといわれる。

しかし、大原の子ども達を見てほっとするのは、常に他人のことを考えることができ、非常に礼儀正しく、指示に素直に従う等の姿からである。また、お年寄りや年少者や数少ない同級生などにも、いつも丁寧に接しられるという良さもある。

このようにほっとする良さ、つまり「ゆとりある心」は、豊かな自然や、比較的恵まれた経済事情、地域の人たちの温かい人間関係に育まれてきたゆとりの心とでもいえるのかもしれない。都会では希薄になってきた地域コミュニティの良さに裏打ちされた、人に心遣いができ、礼儀を重んじる穏やかな「ゆとりある心」を大切にしたい。

自信を持って伝えられる子に(誇れる子に)・・・

「ゆとりある心」は、地域コミュニティの弱くなった都会では、なかなか身につけにくく、こうした心を持っていることは、大変貴重な素晴らしい自慢できることである。しかし、子ども達は大原で育まれたこの良さを、あまり認識できず、逆に田舎出身だとか、小規模校であったことなどを引け目に感じたりして、なかなか自分を前に押し出せない場合も多い。確かに、今の時点でも、子どもたちの中には、人の目を見て、しっかり挨拶ができない子がいたり、慣れすぎた人間関係の中で、年長者や同級生に乱暴な言葉を投げかける場面があったり、また、子供同士の位置づけがあり、そこから伸び伸び自己表現できず、今の環境を必ずしも楽しめていない子など閉鎖社会の弊害も見られる。

しかし、都会の子ども達と比べると、やはり本来持っている素直でおおらかな性格が、多くの人たちに潤いを与え、好んで受けとめられることが多い。また、まじめで正直にいろいろなことに真摯に取り組む姿勢を身につけた大原の子どもは、中学校を出ても素直に自分の力を伸ばし、自分の望んだ進路選択にうまく進んでいる場合も多い。

このように、大原の子どもたちは、総じていうと、社会的には歓迎され、うまく活躍できる要素を持っている。本来持っている素直でまじめで、おおらかな自分の良さを気づかせ、それをいかに自信を持って自己表現できる子どもたちに育てていくのが課題である。

そのために以下3つのつけたい力を明確にし、学校ぐるみ、地域ぐるみで9年間の小中一貫教育を推進し、大原を愛し、自信を持って、世界に羽ばたく大原っ子を育てていくのが中心的主旨である。

豊かな自然を活用した学校、地域での体験学習や校内での作業学習などに自ら、進んで汗を流し、大原の好き、自分の良さに気づき、多くの人・自然・地域とのつ・な・が・りを意識し、それらに思いやりを持てる子

常に社会に目を向け、社会的好奇心を持つ。自分の頭で物事を考え、自信を持って人に伝えられるための客観的力(学力・思考力・コミュニケーション力)を身につけ、行動化できる子

相手を大切にし、正しい理解のもとに、きちんとした言語を使い、(国語力・英語力・コミュニケーション力)相手に自分の意志を正しく自信を持って伝えられる子

1. 思いやりを持ち、自ら汗のかける子

～大原の好き・自分の良さに気づき、自分と人・自然・地域とのつながりを大切にし、自ら汗のかける子に！～

- (1) 生活科・総合的な学習の時間を活用した農園学習を通して
- (2) 地域の大原大掃除、環境保全活動や日常の学校の清掃活動を通して
- (3) 高野川水質調査や高野川水生生物調査を通して
- (4) 地域の大原探求・チャレンジ体験を通して

自分たちが直接、農産物の生産、販売、環境調査、動植物の観察、保護、清掃活動等を体験することによって、世の中でこうした仕事に携わっている人たちの動き、関わり、水の行方、地球の行方、動植物の生態系の循環、環境破壊のこと、その保護のことなど、多くの人の、自然の、地域などの**つながり**が意識できるようになる。これを意識することがさまざま**つながり**や、自然環境の保護を考えられる子ども達を育てることにつながると言って良い。

- (1) 生活科・総合的な学習の時間を活用した農園学習を通して

・農園実習を通して

実るまでにはさまざまな手間が必要なこと 天候などの自然条件に左右されること

猿やイノシシなどの様々な害獣がいること 肥料、土、水などの条件でできばえが変わる

こと等を学ぶ

・朝市や路上での販売活動を通して

食料を作ることの意義 販売に至る過程、その条件、付加価値の付け方

販売の工夫他を学ぶ

- (2) 地域の大原大掃除、環境保全活動や日常の学校の清掃活動を通して

身近な地域や日常の生活環境を美しく保つ

環境保護への目を育て、ゴミの減量化、リサイクル、資源保護に目を向ける

ゴミを捨てることへの犯罪性の認識

ゴミ収集や日常的に清掃活動をしている大人の活動他に目を向ける

- (3) 高野川水質調査や高野川水生生物調査、稀少生物の保護を通して

身近な川から、多くの水生生物を調べ、大原の豊かな自然を認識する。

水質検査や水生生物の調査によって、豊かな自然に水質汚染や環境破壊が進んでいることを理解し、自然保護、環境保護の大切さを認識する。

ヒガンバナの移植やオオムラサキの保護などを通して、自分たちのできる環境保護を考える。

- (4) 地域の大原探求・チャレンジ体験を通して

地域の大人たちの働く姿を知り、地域に根ざした産業を体験することによって

働く大人たちの知恵を知る

【大原小・中の強み・弱み】

*強み（力をつけやすい条件）

- ・ 総合的な学習に結びつく素材が多い
- ・ 三千院・寂光院などの史跡が身近にあり、地域行事への参加他で、道徳観、礼儀作法、日

- 本の伝統文化、食事の作法、清掃の心得などを、学習しやすい条件がある しなやか道徳
- ・ 地域の人たちが子どもの教育に大変協力的であり、さまざまな場やサービスを提供してくれる
 - ・ 学校園を通しての学習や大原大掃除など長年取り組んできた実績と経験がある。
- *弱み（障害となっていて、克服すべき条件）？
- ・ 少人数で幼いころからのつながりがあるため、固定的な人間関係が作られた上での思いやりとなっている。
 - ・ 子どもたちの人間関係に地域のや家庭の関係が強く影響しやすい。

【つけた上でのこどもの将来像】

礼儀正しく、どんな人にも、丁寧に思いやりを持って接することができる子ども
 清掃、農作業、いろいろな行事などの準備、後片付けなど、勤労作業をいとわず、
 自分から仕事を見つけて動ける子ども

【つけるための道筋・手だて】

農作業、日常的な清掃活動、大原大掃除、行事の準備等に目的意識を持って指導する。
 縦割りの中で、年長者が年少者への指導をし、年長者が頼られ、モデルとなる関係をつくる。

【つけるためのチャンス・場の設定】

生活科・総合的な学習

学活・特活

大原探究・チャレンジ体験

合同行事

地域行事

三千院や寂光院などでの作法、清掃方法を学ぶ他 『心の教育』の場を作る

地域の大人との関わりで、知恵を学び、文化の伝承の場を作る

2. 科学的思考のできる子

- ・ 読み・書き・計算の基礎学力
- ・ 読解力
- ・ 周囲の物への好奇心・探究心・調べることへの行動力

科学的思考とは論理的思考ともいえる。さまざまなデータや学説をもとに、客観的な根拠を通して順序立ててものを考えられる力である。いま特に読解力が叫ばれているが、この読解力もこの科学的な思考をするための必要条件であり、国語、理科はもちろん、すべての教科・領域でこの科学的思考力の向上に努める必要がある。この考え方が基礎になり、新たな発展にもつながる。

しかし、この力を発揮するためには、基礎的な読み・書き・計算の力を最低限全員につけねばならない力として認識しておき、その手段を考え、共通で取り組む必要がある。

【大原小・中の強み・弱み】

*強み（力をつけやすい条件）

- ・素直で、まじめで教師の指示を比較的受け入れる児童・生徒であること
- ・少人数であり、一人一人の課題と手立てを明確にし、きめ細やかな指導ができる
- ・科学的な興味関心を持ちやすい豊かな自然環境がある
- ・農園を利用した栽培学習やおもしろサイエンス、高野川水質調査、水生生物調査、ヒガンバナ、オオムラサキの保護活動、星の観察会などに取り組んでいる

*弱み（障害となっていて、克服すべき条件）

- ・世の中の動きに関心が少ない
- ・地域の考え方が比較的保守的であり、長いものにまかれる式のあきらめの風土がある
- ・自分からものを考えず、体制にのろうという姿勢が強い
- ・討論などが苦手である
- ・人の思いを気にして自分の意見がいえぬ

【つけた上でのこどもの将来像】

- ・自分の頭で物事を考え、そのための客観性を裏付けるデータを基に、根拠をもって説明することができ、人の考えを取捨選択した上で、きちんと伝えられる子ども
- ・世の中の動きや流れに目を向け、常に先の見通しを持ち、現状を科学的に見据えながら地域の将来を考えていける

【つけるための道筋・手だて】

科学的思考力

国語・・・

数学・・・

理科・・・おもしろサイエンス、栽培活動、環境保護活動などで、興味関心を高め、
見てみよう、調べてみよう、原因を考えよう等の力をつける

生活・総合・キャリア・・・

道徳、特活、総合・・・自分の考えをしっかりと持つ。相手に理解してもらえる表現で伝えられる力

ディスカッションに慣れる（この地域の子どもの弱点！）

社会・・・世の中のことに興味関心を持たせる

英語・・・

読み・書き・計算

国語・・・読む力　　まずは声を出して朗読

書く力　　日記指導

聞く力

話す力

読解力

算数・数学・・・計算力

英語・・・読む力

書く力

話す力

聞く力

3. コミュニケーション力を発揮できる子

一口にコミュニケーション力といっても、科学的思考に基づいた自分の考えを、相手に理解されるように筋道だてた構成を考え、しっかりしたコミュニケーションをとれるためには、さまざまな条件が必要である

- (1) 伝えるべき中味をしっかりとつこと
2 の科学的思考力をもって、きちんと学習を積み、根拠をしっかりと持ちながら、話せる内容をしっかりとっていること
- (2) 伝える姿勢と人を見る目、配慮
(1)の中味をきちんと持つことで、自信が生まれ、多人数の中でも物怖じしない姿勢をつくること
相手の様子を観察し、どのような対応をしたら良いかを考えて実践できる力
- (3) コミュニケーションのための技術・手段
正しい言葉使いを普段から身につけていくこと
正しい日本語、英語を学習し、それをきちんと話せる技術を持つこと

【大原小・中の強み・弱み】

強み（力をつけやすい条件）

- ・多くの学習や活動をしているので、伝えるべき内容は身近にはたくさんあり、自分が意識して収集すれば、たくさん集められること
- ・人に対する優しさ、相手を見る目、相手を配慮する心遣い、礼儀正しさなどを身に付けているので、相手にあわせてコミュニケーションを考える条件がある
- ・少人数での授業や、学校のさまざまな活動の中で、一人ひとりの活動の機会が多く持て、練習を積み重ねることができる
- ・一貫の中で、全員がリーダーシップを持って話す場面が増え、特に、下学年によき手本となるうとがんばる

*弱み（障害となっていて、克服すべき条件）

- ・いつも少人数のため、大勢の前で話したり、発表したりすることや、見知らぬ人への対応に躊躇する
- ・いつも限られた人たちとのコミュニケーションで済んでいるので、きちんとした伝え方をしない癖がついている
- ・少人数の中で、きちんとした発言の仕方や声の大きさが身につけていない。
- ・小さいときから知りすぎているため、言葉を介しての意思伝達が弱い。？
異質な人格・環境に慣れていない。地域も、馴染み合いで物事が進んでも認めざるを得ない。

【つけた上でのこどもの将来像】

きちんとした日本語を使い、相手に自分の意志を正しく伝えられる

大勢の前で堂々と発表できる

見知らぬ人にも躊躇せず話すことができ、自分の考えをきちんと伝えられる

日常的に使う日本語を、英語で会話することができ、見知らぬ人や外国人にも、大原の良さを伝えられる

【つけるための道筋・手だて】

国語

英語

総合的な学習

学活・特活

学校行事

その他

【つけるためのチャンス・場の設定】

キャリア教育（大原検定）を通して観光客に質問する。大原案内を兼ねる

英語の大原検定をつくり、外国人観光客にも質問する。案内を兼ねる

総合的な学習の時間や、文化祭その他の発表に全校の子どもや地域他、多くの方達に声をかけ、なるべく観客の多い中で発表する

リビング京都やFM京都などのマスメディアを通じて、地域の紹介を継続的にしていく（キャリア教育）

年1回はホームステイも含めた外国人との交流学习をし、大原地域または、大原小中の取組の交流学习をしながら、生きた英語の力をつけていく

他小中学校との交流をし、同世代の多人数での発表の機会を持つ

朝の会や、児童集会の場で発表をする

日本語検定などの活用